府内最大規模の養豚農家における豚熱発生予防の取組

南丹家畜保健衛生所

○久保侑加　田中究[1)]

【はじめに】平成30年以降、全国で豚熱発生が続く中、管内の野生いのししにおいても令和3年4月から豚熱陽性を確認。当所管内では府内飼養豚の99%が飼養されており、そのうち85%を占める府内最大規模の養豚農家（一貫、約11,000頭飼養）における発生予防の取組を報告。【防疫対策強化】飼養衛生管理基準改正に合わせ農場の防疫対策を強化。新豚舎の建設にあたっては豚導入前から助言を行い、高い衛生レベルを保つように指導。【適期での子豚への豚熱ワクチン接種】令和2年1月からワクチン接種を開始し、初回の免疫付与状況確認検査では高い免疫付与率（令和2年2月:88%）を示したが、第2回（令和2年8月:82%）、第3回（令和3年2月:51%）と低下したことから、子豚におけるワクチン接種日齢の違いによる免疫付与率を検討し、令和3年1月より接種時期を5週齢から7週齢に変更。その結果、第4回（令和3年8月:82%）、第5回（令和4年2月:90%）と免疫付与率が上昇。その後もワクチン接種農場での豚熱発生が相次ぐ中、母豚の中和抗体価（第2回：166→第5回：80）や第2世代割合（第1回：0%→第5回：40%）を考慮し、令和4年4月からはワクチン接種時期を5週齢に変更。【まとめ】飼養衛生管理基準の遵守と適期でのワクチン接種により現在まで豚熱の発生は認められていない。今後も農家と協力し、豚熱発生予防に努める。

1)現：山城家畜保健衛生所